

月例研究会 (2009年 1月28日)

## 無償労働評価の方法および政策とのつながり

橋本 美由紀

本論文の課題は、無償労働の評価について、評価方法を中心に検討し、ジェンダー平等をはじめとする社会・経済政策とのつながりに関する論議を整理し、今後の研究の方向を示すことである。この課題の社会的必要性は、(i) 社会や経済の設計において無償労働部分の大きさを確認し、これを社会制度・政策に位置づけること、(ii) 無償労働は、歴史的にも主として女性が担ってきており、女性の地位の向上にとって無償労働の可視化は不可欠であることにある。研究上の必要性としては、研究には国際的に立ち遅れがあり、特に日本では空白状態に近いことである。本論文での研究上の重点は①無償労働論「一般」ではなく、あくまで無償労働の「評価」に注目し、②無償労働の評価を貨幣額表示と物量表示の両方を含む「評価」としていること、③無償労働評価と諸政策の関連を追求すること、④国際的な先行研究の発掘と内容の把握、整理・特徴づけに重点をおいたことにある。

**第1章 無償労働評価をめぐる研究史の概観**  
国際的な研究史的文献を発掘し、また日本での若干の文献について内容を要約・整理し、それら文献が扱っていない、研究経過を示し、無償労働の評価計算の事例を網羅した表を示し、研究の変遷の特徴を指摘した。

**第2章 無償労働の貨幣評価におけるインプット法—経済企画庁経済研究所による推計作業の再検討— 無償労働の貨幣評価の2つの主**

な方法の1つであるインプット法を経済企画庁の推計作業を例にとりて検討し評価を与えた。

**第3章 無償労働の貨幣評価におけるアウトプット法—インプット法との対比において—**  
インプット法と対比してアウトプット法の特徴点を指摘、この方法による推計事例を発掘して紹介し、長所と短所について検討した。

**第4章 無償労働の評価と世帯生産サテライト勘定**  
SNAのサテライト勘定による無償労働の評価・表示をめぐる諸問題を、(i) 93SNA以前からの、世帯の無償労働の国民所得・GDPへの算入に対する賛否両論を紹介し、(ii) 93SNAにおいて世帯生産がサテライト勘定と位置づけられる過程をふりかえり、(iii) 世帯サテライト勘定を具体化している研究事例を探り、特に2003年のEurostatによる世帯サテライト勘定の方法論の「提案」と、これに基づくフィンランドとドイツの推計例を紹介して、整理し、筆者の見解を示した。

**第5章 無償労働評価とジェンダー平等政策とのつながり**  
無償労働の評価と、男女平等、労働市場、および税などに関する諸政策との関連を、(i) これまでの議論を概観して、特に4文献に注目して紹介し、(ii) これらの議論を整理し、成果と弱点を指摘し、(iii) 今後、各政策との関連で無償労働の評価がどのように行われるべきかを一覧表を提示しながら論じた。

**主な結論** ①評価方法は、インプット法が主流となっており、世帯サテライト勘定に表現する形で無償労働の貨幣評価が進展する一方で、物量評価への再注目がある。②評価の各段階において重要なことは目的と政策との関連を問うことである。③関連政策において少なくとも無償労働の時間による評価は必要であり、補償等を伴う場合は貨幣評価も必要である。

(はしもと・みゆき 法政大学大原社会問題研究所  
兼任研究員)